

タウンミーティング「豊橋のまちづくりと公共交通を考える」まとめ

東三河地域研究センター常務理事 高橋 大輔

1. まちづくりと連携した公共交通の利便性向上

- (1) 「まちづくり」とは、一人一人の市民のライフスタイルを向上させ、シビックプライドをあげる事。
そのため、都市政策（まちづくり）と交通政策は、融合することが大事。
- (2) 豊橋における公共交通は、まちの未来・地域発展のために、重要なインフラである。
- (3) 広域まちづくり観点から、東三河地域の交通結節点として、豊橋駅およびまちなかの重要性を認識
⇒アクセスのしやすさ、乗り継ぎのしやすさ、まちなか周辺開発

2. まち・まちなかの賑わい、魅力を高める事

- (1) 暮らし続けられる、選ばれる都市として
⇒豊橋には二つのワクワク楽しくなるような構想がある
「豊橋まちなか未来ビジョン」、「豊橋技術科学大学 豊橋 2050 計画」
- (2) みんなで考え、魅力的なまちなかを目指して
 - ① みんなで考える魅力的なまちなかになれば、恩恵を受ける人が増える。
↓
 - ② 恩恵を受ける人が増えると、公共交通がもっと充実する。
↓
 - ③ 「まちなかに行こう」という、お出かけの動機になる。
↓
 - ④ 投資に結びつくなどの好循環が生まれ、まちの黒字化につながっていく。

3. その方法として

- (1) 地域の連携・力（TEAM 豊橋）で行う。
- (2) 公共交通はまちづくりの必須のアイテム・ツールとして位置づけ、「都市施策」と「交通施策」をセットで考える
- (3) そのため、産官学、特に行政の力を最大限に注ぎ込む
⇒長期的視点では維持・支援ではなく主体的に、投資へ

以上を踏まえ、2050 年にしあわせなまちとなるため、「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を総合的に取り組んでいく。次の 10 年、20 年へ続く、本日はそのスタートの日として、まとめとする。

以上